

巻頭言

「コロナの中でハナミズキが咲いて」

理事長 新谷友良

いつもの年と同じように満開の桜が散って、葉桜となったと思ったらハナミズキが咲きだしました。自宅の前の何ということもない公園ですが、椿、梅、桜、コブシ、ハナミズキと冬から春への花が咲いて散ります。

昨年4月7日に新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が出ました。日記に「晴れて暖かい。午前中、行きつけの歯科で定期チェック。奥歯の磨き残しを指摘される。担当の医師が辞める。お世話になった。そのあと新宿のジムに行ったが、玄関に“緊急事態宣言により明日から休業”と貼り紙がある。夜、正式に緊急事態宣言が発令された。」と書きました。

1カ月以上続いた緊急事態宣言は、5月25日に首都圏1都3県と北海道を最後に全国すべて解除されましたが、協会はその前日5月24日に中野サンプラザで通常総会を開催しています。その日の日記は「総会が無事終わった。そのあと、代々木の北参道から明治神宮に入り、本殿を通して西参道まで散歩。緊急事態は明日解除だが、今日すれ違う人はほとんどいない。」と簡単です。

年が代わって1月7日、2回目の緊急事態宣言が発令され、延長もあり東京では漸く3月21日に宣言が解除になりました。それでも感染が収まらず、今は変異ウイルスの広まりで「感染第4波」が言われ、緊急事態宣言を衣替えした「まん延防止等重点措置」が各地に出されています。新型コロナウイルスのうねりは続きます。

コロナウイルスにいくつかの変種が生まれて、その都度私たちの対応は右往左往を繰り返していますが、1年前と今のウズコロナの生活は変わり、以前は驚いた1日の感染者数30人が、今では300人でも驚かなくなりました。自粛疲れで鈍感になったこともあります。医療関係者を先頭にしたさまざまな分野でのコロナへの取り組みが積み重なり、コロナと私たちの関係が明らかになってきているのも事実と思います。

NHKのEテレで放送されていた「又吉直樹のへウレーカ！」が終わりました。最終回、ゲストの植物学者に又吉が、「やっている研究の結果がダメだと分かることはとっても意味があるのでは？」と突っ込んでいました。私たちとコロナとの生活もダメなこと連続ですが、ダメなことが分かることも、私たちが変わっていくのに大切なことではないかと思っています。